くにみ

【才99号】
昭和40年12月15日発行
非売品
発行所 国見町公民館
発行人 佐藤善次郎
編集人 鈴木美一
印刷所 宇佐美印刷所

1月16日（第3日曜）

さあみんなで「家庭の日」を！

明年一月から「家庭の日」を設けて、家族全員で話し合いをし、また、みんなでレクリエーションやスポーツ、作業その他を実施することによって家庭のなごやかさをつくり、家族みんなの意思の疎通と感情の融私をはかり、お互いに理解し合い、もって健全な青少年の育成をしようとするうごきについて、先月号でそのあらましをお知らせしました。その後、十一月二十六日には町内の各種機関団体の代表者が集まって、わが町としての態度を協議した結果、大体県の方針にしたがって、毎月才三日曜日を国見町の「家庭の日」と定め、次の方法でこの運動を展開することになったので、町民各位のご協力をお願いします。

◎国見町役場のしごと

役場では「家庭の日」普及についての資料をつくって各家庭に配布したり、名推進機関団体に対し研究協議の機会を設ける。

役場では住民課がこれを受けもち「私達の「家庭の日」について」と「国見町家庭の日のしおり」を作りそのうち各家庭にお配りしますからよくお読み下さい。

◎部落会の役割

部落では部落全員の会合を開き「家庭の日」の実施を申し合せ、その態勢を整えて下さい、部落長さんは班長さんだけでなくPTAや婦人団体の部落役員、民生委員体育指導委員の方々にも協力をいただくのがよいと思われます。

◎町教育委員会の役割

町教育委員会では各学校公民館が「家庭の日」の実施について積極的に協力するよう指導する。

◎各学校の役割

各学校では、児童生徒に対して、事前に「家庭の日」の予告をしたり、事後に各家庭の実施状況を発表しあわせたりして「家庭の日」の普及と実施内容の充実をはかるよう努める。

◎PTA婦人団体の役割

PTAや婦人会、農協婦人部、婦人学級などでは、地域住民や会員相互間で「家庭の日」の実施を申し合せ、またそれぞれの実施を紹介し合ったりして効率的な実施を図る

◎公民館の役割

公民館では、各推進機関団体の普及実施に助言指導する

泉田上の集団果樹園づくり

構造改善いよいよスタート

わが町では農業改善事業を進めるにあたり、水田、養蚕果樹の三つを基幹作目に選びそれぞれ適地を選んで推進することにしている。そのうち泉田上地区では、果樹園集団成果樹園、農道、宅地等を差事業を実施することにし、地元関係者は町当局に積極的に働きかけ、熱烈な協力体勢を進めていた。その計画は順調に進み、いよいよ去る十一月十五日より九日間にわたり一応造成改良地域の外郭測量が完了した。この測量の結果によれば、総面積三〇町歩、既引いても一五町歩の増反が可能となり、これが造成されれば、スピードスプレヤーによる共同防除、トラクターによる省力化、四メートル道路の整備による集出荷の便等理想的な近代化農業の出現も夢でない一年早ければそれだけ早く農家経済の安定、文化生活の向上が見られるのだと関係者は大きな期待をもって奮起と努力を誓い合っている。

あととり養成OK

農村建設班始まる

新しい町づくりの担い手としての農村後継者をつくるべく、一昨年から実施してきたわが町の農村建設班は、その成績がすこぶる優秀なため、班員の家庭から非常によろこばれ、他町村からの入班希望までまい込む始末に当局は大いに意を強うし、今年も引続き開設することになり、先程から班員を募集中であった。ことしは募集の着手がおくれたため大多数の青年がすでに出稼ぎや勤めに出たため若干手間どったようであったが、熱心な関係者の説得や家庭の協力によって本人の覚悟を呼びおこし、たちまち予定の人数を確保し近く開班式を行う予定である。

採用者次のとおり。

古内 忠宣 内谷、西堂
野村元次郎 小坂、板橋
熊坂 初男 内谷、東
八島 正晴 山崎、下川前
佐藤 且雄 石母田、築山
市川 忠明 同 荒町
古川 幸男 藤田、町尻
菊地 良七 石母田、下原
八巻 良一 徳江、団扇
松浦 泰平 大木戸、前
佐藤豊之助 貝田、切内
吉田 邦男 大木戸犠門場
渋谷 正志 光明寺、沼
遠藤 忠雄 同 車
鈴木 幸一 高城、石田
村上 清正 大木戸、六角
松浦 元治 西大枝、築館
鈴木 文雄 同

新しい民生（児童）委員

十二月一日全国一斉に新しい民生委員が生まれ、わが国見町でも次の三〇名の方が厚生大臣から委嘱された。これは社会福止法の定めるところにより、社会奉仕の精神をもって住民の保護指導と社会福祉の増進に或はまた青少年の健全育成のため挺身していただくわけである。

氏名	担当区名
方部名	
小坂 佐藤 ミイ	小坂
〃 安藤 留作	太田川
〃	前田
〃	板橋
〃 目黒久太郎	泉田
〃 後藤 清	鳥取
〃 菅野 富蔵	内谷
〃 鈴木志都賀	前田
〃 藤田 渡辺 重吉	大町南
〃 宇佐美兵蔵	大町北
〃 曳地 善作	錦町
〃 奥山勝太郎	本町
〃 佐久間岩吉	宮町南
〃	宮町北
〃 五十嵐 衛	源宗山
〃	町東
〃	鵜町
〃 高木 幸作	石母田東
〃 斎藤 長一	石母田西
〃 高橋 トミ	山崎
（鉄道線路以北）	
〃	滝山
〃 奥山 シマ	駅前
〃	小館
〃 森江野近野 稔	才一、三
〃 吉田 光雄	才二、四
〃 斎藤 兼吉	徳江北
〃 佐野 市郎	才七、八
〃 徳江 喜一	才九
〃 佐久間いち	塚野目
〃 大木戸斎藤 与市	貝田
〃	大枝
〃	松浦 ハル 山根
〃	星野 ツギ 光明寺
〃	八島福太郎 高城
〃	村上 鉄男 大木戸
〃	大枝 松浦 新一 原町、築館、並柳
〃	佐藤 平治 中部
〃	大浪 政吉 北部 川内

青年の研修会いろいろ

青少年の出稼ぎや都会就職等のため、どこの町村でも在町青少年が極度に減少し、家庭のあとより、町のあとつぎの問題で頭をいためている。それだけに地元に残った数少い青年たちにはしっかりして自分をみがき、他人の分まで働いてもらいたいところである。ところで青年の減少は当然青年団や学級等の組織活動の不振を来たし、ますます、農業と農村生活に魅力を失い離農、離村の傾向を高めることになる。そこでこの悪循環を断ちきるために、現在居残る青年たちのため、集団生活を通して社会性を養い、変貌する社会に生き抜く力と意欲を高めるため、町の各種青年団体は公民館と提携し、この農閑期を利用していろいろの研修会を催うすことを計画している。これまでにきまったもの二、三を紹介して関係各位のご協力をいただきたい。

◎青年団員研修会

主催 国見町青年連絡協議会
後援 国見町公民館
期日 1月23、24、25日
会場 福島市土湯青少年の家
研修内容
青年の生き方
青年団の目的と性格
青年団の事業計画の立てかたと進めかた
正しいレクリエーション
社会の動きと青年の心構えその他
参加者 町内の各青年団体
青年学級生、グループ会員その他

◎スキー研修会

主催 こぶし会
後援 国見町公民館
期日 1月25、26、27日
会場 福島市土湯青少年の家及び土湯スキー場
研修内容
スキーの理論と実技
青年のエチケット
正しいレクリエーション
参加者 こぶし会員の外に青年団、青年学級生の希望者

◎伊達管内青年リーダー講習会参加

主催 伊達管内公民会連絡協議会
後援 伊達地方教育委員連絡協議会
期日 12月13、14、15、16、17、18日
場所 静岡県御殿場市国立中央青少年の家
研修内容
青年団体、青年学級の現状と問題点
青年の心理
スポーツレクリエーションの技術
視聴覚の理論と実際
広報活動の実際
青年団の組織と運営
討議法の理論と実際
その他宿泊と団体旅行を通して集団生活の基礎訓練をする。
参加者 伊達管内より四四名国見町より左記九名
小坂方部 黒田 勝夫
藤田方部 高野 久美
同 佐々木英子
森江野方部八巻 毅
同 東沢ちとせ
大木戸方部佐藤豊之助
同 谷津 富夫
大枝方部 松浦 幹雄
同 後藤 アイ

億の金より子は宝

子どもの非行を防ごう

◇ 家庭で注意したいこと

毎年冬休みになると非行少年が増加します。

昨年十二月と本年一月の二カ月間に警察に補導された少年は

刑法犯少年 六三
五名
ぐ犯、不良行為少年 一、二九
六名
計 一、九三一名

ろいろの行事で街はにぎわい、家庭でも年越しの準備等でいそがしくなります。

冬休みに入って学校から解放された気分になる子どもたちはとかく気がゆるみがちになり、外出やよくない遊びにおちいりがちになります。

◇ 子どもを非行から守り

たのしい冬休みとするために各家庭の注意が大切です

子どものよい習慣をくずさないように

歳末のせわしさから

子どものしつけについて関心がうすれ、放任しがちになるため、子どもの生活がみだれやすくなります。まず、おとなが手本を示してよい習慣をくずさないようにしましょう。

また、家庭で飲酒する機会が多くなりますが、子どもに酒をすすめたりしないようにしましょう。

小使い銭は相応に

冬休み中は、クリスマス、年末年始等で子ども達に余分の小使い銭が手に入る為それがキッカケとなって非行におちいる場合があります。たとえば盛り場等へ出入りして悪い遊びを覚えたり、また他人にたかられたりして、金銭のむだずかい癖がつき家から物を持ち出して質入れしたり、さらには他人にたかったり、万引スリ等を行なうようになります。小使銭の与え方に十分気を配り、その使い方について注意しましょう。

友だちとの交際に注意を

外出、盛り場の出入り、などで未知の少年と知り合ったりする機会が多くなりますと、しらずしらずの間に悪い遊びにはしりがちです。もし悪い遊びを見たら自分の子と同じように他人の子どもに対しても遠慮なく指導するようにしましょう。

子どもの行先は必らずたしかめて

冬休みは外出の機会が多くなりがちですが、非行や事故を未然にふせぐためには、まず子どもの行く先と帰宅の予定時間をたしかめることが大切です。子どもが、どこで何をしているのか知らないようでは困ります。それから、外出から帰ったときは、さらに外出先とその用件をよく聞くように、言わせるように習慣づけましょう。

「友だちのところに勉強に行く」等といって悪い遊びをしている例等もありますからよく注意しましょう。

夜あそびや外泊に注意を

夜のまちには子どもの遊び場はありません。子どもの夜遊びや、外泊は決して良い結果にはなりません。夕食時には必らず帰宅するようにしつけておきましょう。

明るい家庭づくりを

家庭は一家団らんの場でなければなりません。家庭が明るく、子どもの安息の場であることがなによりも大切なことで、非行防止の基本です。親、兄弟、家族みんなが、和気あいあいの家庭をつくるように気を配りましょう。

このためにも毎月才三日曜日に各地で行なわれている「家庭の日」を実施しましょう。

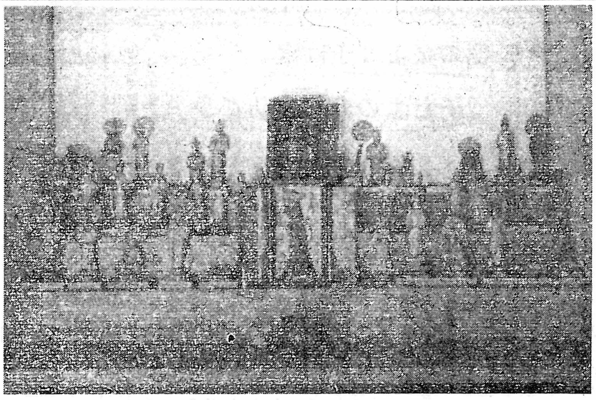
子どもを正しくしかる親に

子どもの自主性を尊重することは大切ですが、放任したり子どもの主張をそのまま通りのみにすることは、正しい親の態度ではありません、親は子どもに対して指導監督する義務があります。この冬休み期間中からでも子を正しくしっかり導く親となりたいものです。

（青少年対策室）

◎年末年始の宴会を自粛しましょう ◎たばこは町内の小売店よりお求めください……たばこ消費税は町の有力な財源です

◎農村振興大講演会――一月十一日・藤田小学校・福大教授角田武雄先生



【写真】は塚野目正法寺の三十三観世音

旧森江野村を歴史的にみる

毎日なんとなく生活している私たちの土地は、歴史的に見たとき非常に貴重なものと思われます。祖先のかたがたが汗と血で染めた田畑が、祖先の死と私たちの生との神秘的な関係によって私たちの手に引き継がれました。そして無意識のうちに、生活のために耕されているこの土地は一日一日が歴史の積みあげであり次の歴史への展開であります。その意味では、全ての土地が歴史の発生分子であり貴重なものであります。私は、それらを重要視するとともに、それよりも私たちの土地旧森江野村は、政治、文化、経済等の諸々な歴史的観点から非常に重要な位置を占めているものと思われるのであります。何故でしょう。例をとって説明してみます。

塚野目の八幡古墳

塚野目の八幡様のあるあの古い古墳です。霊山軍記と云う本に、塚野目古墳は北畠顕家の弟北畠正教が、戦死した兄とその一族を弔って四十八塚を作ったと書かれてありますが、あの古墳はそんな新しいものでなくもっと古く、おそらく約千七百年以前ころのものであると思われます。と同時に、あんな大きな古墳は信達中を探しても見当らないのではないでしょうか。よほどの豪族が塚野目の附近に住居し、政治的な支配をしていたと思われるのです。

徳江の古い寺院跡

奈良の大仏様を写真や実物によって見られたことでしょう。その大きさとそれを安置している東大寺の規模の大きさには誰しも驚異の目を見はることと思われます。その寺院よりやゝ小さな寺院が同時代の奈良時代にこの徳江に建造されてあったらしいのです。徳江の観音堂から沼田神社の裏にかけた大きな地域から出て来る布ノ目瓦はそれを物語っているのではないでしょうか。唯残念なのはその時代のものと思われる礎石が、観音堂の下から一コだけ発見されただけです。

交通の要地としての徳江

鉄道が東京から福島まで敷設されたのは明治二十年です。それまでは、宿駅として、瀬ノ上、桑折、藤田などがあり奥州街道があったことは誰れでもが知っていることです。だが、二本松、仙台間を阿武隈川利用の川運搬が、江戸時代中期から明治三十年ころまでに相当発達していたことはあまり人には知られていないようです。この徳江は梁川、福島などとともに舟問屋が一軒あり、二十石積みの舟を所有し仙台、二本松間を他地区の問屋とともに活躍し繁昌したことは河村端軒の残した書類や、明治初年の諸文書に書かれています。沼田神社の彫刻はその時代の繁昌ぶりを偲ぶに十分でしょう。

以上、私たちの村が、いかに歴史上重要な位置を占めていたかを三つの例で説明しました。そしてこの村のうつりかわりを見て参りました。私は何とかして　この村の歴史を世の中に発表したいと念願しております。しかし、それには実証する材料が少ないのです。皆さんの家のたんすのなかに、または家のかたすみにある、しみのついた古い文書、いつか掘り起された大きな石、かわらけ、石器などがありましたら教えていただきたいのです。（後畧）

（佐藤堅治郎先生書翰より）

われらはかく学ぶ

映画「暮らしの中の交際」を見て

―国見町青年学級文化部―

私たちはこの「間青年のエチケット」という題で学習した。このときは映画「暮らしの中の交際」という二巻ものを見てみんなで話し合った。わずか二〇分ばかりの短いものだが、この映画は、暮らしの中の交際を通して、正しい交際に必要な四つの条件を示し、ひじょうに感銘の深いものので、今の大人の人たちにもぜひ見て反省してもらいたい映画だと思う。

近所同志、友人同志、又職場で、家庭で、私達の暮らしも正しい交際によって豊かにもなり、楽しいものにもなる。正しい交際は私達の知識を高め、世間を見る目を拡げてくれるからである。他人との交際がじようずかへたかは私達の暮らしの中で大切な心掛けになるわけである。では交際を楽しい交際にするために、どんな心掛けが必要か、私たちは映画を見たあとで小団討議をし、その条件を次の四つにまとめたのである。（黒板に書いたまま）

一、相手の弱点を傷つけないこと、

二、自分の長所や美点を余り誇らしげに言わないこと、

三、相手の人格や能力を軽くみて、蔭口でけなす態度をもたないこと、

四、自分本位になり勝ちな気持ちを押え、相手の立場に立って考えてやること、

私たちは、以上の一つ一つについて話し合った。たとえば才一の条件について、人間は誰しも弱点をもっていて、それについて劣等感を感じている。そういう点にはさわってもらいたくないことはお互いに皆感じている。ここで自分の弱点は何んであろうか、心ひそかに考えてみた。このことは裏返すと、相手のよい点をほめること、が相手に好感を与えることになる。

四つの条件の中に一貫して相互間に「誠実」「誠意」が流れていなければならない。これがエチケット、交際の基本である。

しかし、誠実、誠意だからといって、相手の立場や時と場所、その場の雰囲気をも無視して、単刀直入の誠実さだけでは、反って誤解を招く場合もある。だからといって、その場限りの美辞麗句やうそいつわりで相手にただ調子を合わせていくのも、決して正しい交際ではない。このへんがやはり世の中のむずかしさといふところだろう。

（国見町青年学級記録係）

〃教育漢字を理解しよう〃

漢字はむづかしい。それで当用漢字一八五〇字が生まれ、さらに義務教育で教える漢字として、その中から教育漢字八八一字を選んでいる。こうなると、文字を選ぶのに気骨のおれることおびただしい。

昔は漢字をおぼえることに苦労したものだが、今はその漢字を忘れることに骨折っている。全部忘れろというなら気楽だが、選んで忘れるということになると、新しくおぼえる以上のなやみがある。

「月刊公民館」十二月号にこんなことが載っていたのでご参考までに。

教育漢字をおぼえる歌

君があって僕がない
妻はあれども妾がいない
婆があって爺いない
嫁がいるが姑がいない
頭があれど尻がない
皮膚があって肌がない
肥る人あって痩いない
老人いても杖いがない
握手があって挨拶ない
授けてみたが貰いてない
売ってはみたが儲がない
打つものあって叩くがない
殴ってみたが喧嘩がない
踏むだけあって蹴るがない
盗人捕えて縄がない
敵はいれども仇がいない
裸になるにも褌ない
（読人不知）

腰巻あれど紐がない
米があって糖がない餅もない
酒があって肴がない
塩はあれど醤油ない　味噌もない
砂糖があっても汁粉がない
甘酒つくるに麹がない
飯はあれども箸がない
×
家を建てるに槌鉋鋸がない
釘もなければ鋲もない
門があっても塀がない
戸があって扉がない

錠があって鍵がない
机はあるが椅子がない
窯があって鍋がない
炉があって炬燵がない
盆があって皿がない
提灯あれど蠟燭ない
掃いてみたいが箒がない
×
仏があれど菩薩はない
神があって榊ない柵もない
雨が降っても泥がない
雪が降っても霰が降らない
雲があるが霞がない

船があっても錨がない
犬はいるが猫いない　鼠いない
鳥を飼うにも餌がない
臭いけれども蝿いない
角があっても爪がない
茎があって蔓がない
峰はあれども岡がない

電車の中で立つ高校生…松田ふみ子

先日長野県天竜峡に講演のため出かけた。飯田で乗りかえたところ満員、私は立ちん坊を覚悟していたら私の前に掛けていた飯田女子高校の生徒が「どうぞ」とかわってくれた。すると私の横で座席に荷物を置き二人分の席を占めていた男があわてて荷物を膝の上にのせた。その真正面の席の羽越高校の女生徒があわてて席を立ち、車室の隅っこで赤ちゃんを抱いてしゃがんでいた女の人を呼びに行って掛けさせた。

一つの善行が連鎖反応で拡がって行くのを見て、私はゆかいだつた。

東京に帰った翌日　国電に乗ったら、高校生が男女とも女の人や子どもを無視して、大威張りで腰かけていた。

飯田市では電車の中で、なるべく立っているように、と校長からすすめられているという。

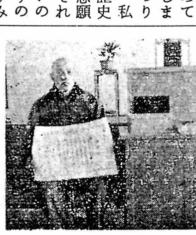
高校生は若さと健康にあふれている年代だ。通学のわずかな時間ぐらい、立っている方が美しいのではないだろうか。ドイツの高校生などはみんな立っている。

（評論家）

（本文は、明るく正しい選挙推進機関紙「私たちの広場」より転載した。さてわが国見町からも多数の高校生諸君が通学されているがどう考えそして実践しているかどうか話し合っていただきたい）

塚野目三題

◎保険庁長官より感謝状



塚野目才十二部落（五三戸）では国民年金発足の昭和三十四年以来、部落民協力一致して趣旨の徹底と掛金の完納に努め、その成績すこぶる良好であるというので去る十一月十八日県下十四組合の一つに選ばれ保険庁長官から感謝状と記念品を頂いた。（写真は部落長佐久間長兵衛氏）

◎省力栽培で反一一俵

塚野目農研では町の委託事業として稲作の乾田直播を主とした省力栽培を実施しこの程その結果がまとめられた。それによれば試験田一反四畝から一五俵一斗の収穫があり、省力しても反当一〇俵はあげ得るとの自信がついたと一同喜んでいる。尚その耕種概要については次号にお知らせするとのこと。

◎またまた農林大臣賞に輝く塚野目農研

春以来の異常天候にも拘らず、多年築きあげた技術の真価を発揮し、会員相互の協同精神の成果が実を結んで、本年度の米作増収競技会に、塚野目農研グループの菊地孝一君が見事県下才一位を獲得、農林大臣、県知事、朝日新聞社長の三賞を受け、その他佐藤政一菊地重喜の両君も上位入賞した。尚高城の八島健一君は才二位を得て塚野目グループと共に米作国見の名声を高めた。

尚菊地孝一君の収量は反当七八二・三キロ（一三俵余）である。

「成人の日」を迎えるに当り

私の提言――鈴木

新しい年を迎えて真先にくる大行事は「成人の日」であろう。国民の祝日に関する法律才二条により「一月十五日はおとなになったことを自分の心にいいきかせると共に、その人のまわりの人びとや、国民のすべてが、これからの日本をになって立ち、社会のため世界のためにつくそうとする青年を祝いはげます」ために設けられたものである。

この成人の日を祝う成人式の行事は、年をおって盛んになり、全国のほとんどの市町村で、いろいろの行事が行われている。主なるものをあげてみると

講演会、茶話会、中食会、座談会、芸能行事、意見体験発表会、植樹、植林、討論会、記念品贈呈、旅行見学、視察、神社参拝、演奏会、レコードコンサート、弁論会

しかもそれらの行事を含めて成人式そのものが次才に形式化儀式化し、華美に流れ、自分の心にいいきかせるはずであったものが却って町のお偉ら方からいいきかせるものになり、日本をになって立ちすべき青年が、いろいろいただきものをしたり、ごちそうになることを当然に思うようになってしまった。

ある人は「成人不在の成人式」と評した。時価なん万円の訪問着に身を包んだ身体だけは講堂にきても、心は他所に行っていたのでは、主催者からいえばまさに馬の耳に念仏であり、参加者からいえば、飲みたくない水を飲まされようとする…という結果になり、世話役の公民館主事だけがから回りして忙しいだけのことである。

又ある人はいう、いや現にある地方では実行して一〇〇パーセント効果を挙げたということであるが、華美な訪問着をやめさせるために、成人式を八月十五日にやってはという。まことに名論である。これなら開襟シャツ一枚で出られるのだから男性側でも大助かりだ。成人式を成人の日にせよということはどこにもきまっていないのだ。しかし訪問着禁止令の代りに行うということになったのでは問題だ。おとなになったことを自覚するための成人の日に服装のことまで禁止されなければやめられないようでは成人の日が泣くであろう。

君たちはおとなになったのだ。他からの支配がなくとも自分で正当な判断をし、正しい行動ができるはずだ。君たちにはそれだけの良識が持たれていることを信ずるが故に次の提言をする。もちろんその採否の自由は君達にあるこというまでもない。

一、男女共洋服を着用しよう

一、時間を確守しよう

一、親への感謝の会を持とう

一、大いに話し合おう

一、日本国憲法を一読しよう